

＜第 2 回委員会の論点＞

1. 読本のターゲットや仕様等に関する論点

(1) ターゲットについて

おとな向け：教師、保護者、教育関係者等

（配布方法（自治体ルート）によっては、各地域の行政職員や企業の方々も）

こども向け：小学生か中学生か

何年生向けにするか、8～11歳（小学5年生程度）を想定するか。

（参考）

「足もとの自然から始めよう」（ディヴィッド・ソベル著）では「しかるべき成長過程を尊重する」の項目において、8～11歳を子ども期中期として、身近な世界を探検し自然と結ばれているという感覚が芽生える時期と述べられている。

(2) 仕様について

おとな向け：文字と写真・イラスト

こども向け：案1 漫画（またはアニメーション）

案2 絵本

(3) 全体のボリュームについて

5分程度で読めるものか

(4) 届け方について

①紙による配布の場合：

・学校ルート（文科省、教育委員会の協力を得て配布）

* 協力を得られるか、またどういう単位での配布とするか等は今後検討

（参考）

学校数：小学校 約 20,900 校、中学校 約 10,600 校、高等学校 約 5,000 校

生徒数：小学校 約 660 万人、中学校 約 350 万人、高等学校 約 333 万人

出典：「平成 27 年度版文部科学統計要覧」（平成 26 年 5 月 1 日時点）

- ・自治体ルート

- * 森里川海の取組に熱心な自治体を通じた配布の方が効果的か

(参考)

生物多様性自治体ネットワーク (155 自治体)

配布先：自治体を通じて地域の学校や図書館、NGO 等関係団体、行政職員、企業など

- ・関係団体ルート

- * 森里川海プロジェクトに賛同いただいている団体、企業等に配布

②サイトやSNSによる発信の場合

どんなサイトやSNSを活用するか

2. 「読本」の内容に関する論点

(1) こども向けについて

- ・主人公を設定し、主人公の目を通じて森里川海の面白さや大切さを感じてもらう
- ・クイズ形式又はゲーム形式もあり得るか
- ・哲学を物語る
- ・つながり探しの旅
- ・面白い体験の紹介（やってみよう！ 森里川海それぞれの体験）
- ・教えたくなる小ネタ集

(2) おとな向けについて

- ・森里川海のとつながりやこどもの自然体験の大切さ
- ・こども向けとセットにし、こども向けのガイド的なもの
→こども向けの冊子の随所か最後に解説のページを作る。
- ・すでに取り組まれている森里川海の優良事例を紹介する。